ガイドと行く萩往還ウォーキングツアー

萩往還語り部の会のガイドとともに歴史街道萩往還のいくつかの区間を歩きます。このツアーは体力や興味に合わせて自由に組み立てることができ、通常は竹林、神社、江戸時代（1603年-1867年）の商家などの景勝地、文化遺産、史跡が盛り込まれています。

ガイドが長州藩（現在の山口県）と江戸時代の政治を背景に、萩往還の歴史について紹介します。最も人気のある4つのコースは、北は萩から南は三田尻までをつなぐ53キロの街道の各区間を網羅しています。それぞれのコースは、2.5キロから12.5キロまでで、2時間から4時間かかります。

ルートAは萩の城下町からスタートし、1868年の明治維新の基礎を築く武士で教育者の吉田松陰（1830年-1859年）を記念した歴史館を通ります。この歴史的出来事は幕府の政治的権力の終焉や天皇への主権の回復を示しました。ルートBは明木と佐々並の古い街並みをつなぎ、この街道の昔のままの石畳の区間を通ります。

ルートC沿いには長州藩主が首都江戸（現在の東京）へ上洛するときに休憩した場所があります。これは、現在の山口市の端に位置する、街道の最も急こう配な区間のうちの1つに沿った特に風光明媚なルートです。ルートDは、現在の防府市を通ります。ルートDは10世紀に創建された古い神社である防府天満宮から始まり、三田尻港近くにある別邸、英雲荘で終わります。長州藩主とその従者は、この別邸に一泊し、江戸を目指して船で大阪まで旅を続けました。

萩往還は1604年に萩城が築城された後、長州藩藩主毛利家によって開発されました。萩往還は毛利家が統治する領土をつなぎ、日本海と瀬戸内海沿岸の間の輸送や取引を可能にしました。この歴史あるルートを探索すると、山口県の歴史や江戸時代の文化を知ることができます。